

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

植助染工株式会社におけるボイラー更新
プロジェクト

排出削減事業者名：植助染工株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	植助染工株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	植助染工株式会社
住所	〒590-0403 大阪府泉南郡熊取町大久保中 3-20-15
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

植助染工株式会社におけるボイラー更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、A 重油焚きボイラーのバーナーを交換することによって高効率化を行い、燃料を A 重油から都市ガスへ転換するものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

植助染工株式会社において、既設の A 重油焚きボイラーのバーナー交換を行うことによって高効率化すると共に、燃料を A 重油からより低炭素の都市ガスに転換することによって二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2011 年 11 月 1 日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2018年 4月 1日 ～ 2019年 10月 31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、植助染工株式会社において更新される A 重油焚きボイラー及び都市ガス焚きボイラーから熱・蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の都市ガスの使用量	Nm ³	2018 年度：859,637.3 2019 年度：411,144.7	ガス会社の請求書の値に標準状態変換係数 1.0448 (大阪ガス㈱提供の値) で除する。	変更なし
ε_{Pj}	更新後のボイラ効率	%	77.9	カタログ値 (高位発熱量時)	変更なし
ε_{BL}	更新前のボイラ効率	%	81.9	カタログ値 (高位発熱量時)	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/ Nm ³	2018 年度：0.0436 2019 年度：0.0436	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel, BL}$	事業実施前の燃料 (A 重油) の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2018 年度 ～2019 年度： 0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料 (都市ガス) の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2018 年度 ～2019 年度： 0.0513	デフォルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	859,637.3	0.0436	0.0513	1,922.7
2019 年度	411,144.7	0.0436	0.0513	919.6
単位	Nm ³	GJ/ Nm ³	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
EM _{PJ}				2,842.3

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	35,649.7	—	0.0708	2,524.0
2019 年度	17,050.4	—	0.0708	1,207.2
単位	GJ	—	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
EM _{BL}				3,731.2

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	0			0
2019 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	3,731.2
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	2,842.3
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	888

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
1,403.3	1,475.4	- 72.1

省エネルギー量 (原油換算) = kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			